

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	骨軟部腫瘍検体における FISH (fluorescence in situ hybridization) 法の有用性の検討
	研究目的	診断と治療に難渋する事が多い骨軟部腫瘍の中には特異的な遺伝子異常を伴う腫瘍が存在する事が知られている。骨軟部腫瘍の形態診断が困難であるときに、これらの特異的な遺伝子異常を検出することは確定診断の助けとなり、診断精度の向上につながると考えられている。FISH(fluorescence in situ hybridization)法は、ホルマリン固定・パラフィン包埋切片での検索が可能であり、診断への応用が新鮮凍結切片を必要とする他の遺伝子検査と比較して容易である。今後当院で骨軟部腫瘍において新規プローブを用いた FISH 法解析を導入するにあたり、当院の骨軟部腫瘍検体における FISH 法の有用性の検討を行う。
	研究期間	2017年1月12日から2020年3月31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	研究責任者	鷲見公太
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	病理診断科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし